

## 支える会活動開始 !

6月15日 花壇整備が参加者 24 名により実施されました。  
当日は、暖かで絶好の作業日となり  
当初の予定以上の花苗が植えられました。

花苗が植えられ、今は、雑草抜き・水やり・花の手入れをしています。  
花壇の水やりは、日曜日・水曜日の午前7:00から行っていますので  
都合の良い時に参加いただければ助かります。



花壇整備の情報を聞いて4つの寄せ植えの鉢が届きました。  
芽室町のフラワーマスター 高橋仁美さん、鈴木むつゑさん、  
山崎和子さん、空康子さんによる寄せ植えです。  
とても綺麗なので皆さんも見に来てね。

## ～ 患者さんの声で変わったこと ～

「入院病棟から花壇が見えない」

「病院の南側（駐車場側）に花壇があったら…」

という声がありましたので、今年度は、夜間の急患入口のある病院南側に花壇を増やしました。  
気付いて頂けましたか？

「支える会」では、利用者の方が心地よく使える工夫とお手伝いをこれからも続けて行きたいと考えています。

病室の窓からみて



# 支える会 っうしん

公立芽室病院をみんなで支える会広報  
第4号  
2012年7月20日発行

## 2012年度 総会無事終了!

2012年4月21日 メムロードにて 約70名の参加のもと  
『公立芽室病院をみんなで支える会 総会』が行われました。

谷口和徳さんを議長に会として活動したことを中心に報告されました。花壇整備などの活動報告がありました

総会后、公立病院の医師、看護師を含む51名の方が参加して『交流親睦会』が開かれました。  
交流会に参加した会員からは「ざっくばらんな感じで職員の方と話が出来て良かった」「お互いが  
意外と知らない」「情報の共有ができれば、もっとお手伝いなど一緒にできることがあるかも」と  
この会を作った当初の思いを感じてくださった方もいてうれしく思いました。

「こういう場も必要だなあ」と、人と人のつながりを感じた時間でした。

今回参加できなかった方も次回は参加をして、つながりを確認してみてもいいでしょうか？



## 会長 第17回道国保地域医療学会（札幌市）に出席

6月16日 道国保診療施設連絡協議会と道国保連合会の主催する  
「地域における地域包括ケアの充実・促進を考える」をテーマにした  
医療シンポジウムに鳥本会長がシンポジストとして参加しました。

出席者の多くは、道内の公立の病院、診療所で医療に係わる医師や看護師、  
技師並びに自治体の関係者で、芽室町からも小窪院長、宮本名誉院長はじめ  
看護師長、事務長など10名の参加がありました。

さらに、宮西町長が終日出席され芽室町の姿勢をアピールされていました。



地域医療学会という名称のとおり内容としては、医療関係の  
研究発表が主たるもので、公立芽室病院から眼科の大西医師  
透析室の原子看護師が発表者を務めました。

シンポジウムでは、住民の立場で公立病院との関わりを持つと  
する支える会の活動を歓迎する意見が寄せられていました。

参加して地域医療にかける若き医師がいることがわかった。  
どの地域も大変。工夫して頑張っている事もわかった。



## 事務局通信

支える会 会員数 (6月30日現在)	一般会員	196 名
	団体会員	1 団体
	法人会員	9 法人

会員は、随時募集しています。

会員の要件	公立芽室病院を利用している人 公立芽室病院を大切に思う人 お医者さんや看護師さんを応援したい人	} そういう人なら どこに住んで居ても OKです
-------	---	--------------------------------

★ 問い合わせ 会長宅 62-1439  
事務局長宅 62-2516  
(公立病院事務局でも入会できます)

★ 年会費は、1000円です

# TPP と医療問題

農業王国十勝を支える一角である芽室町、JA を中心に TPP の問題が話題になることも多い。「農家の人は、大変だなあ」とぐらいに考えている人はいないだろうか？ TPP は、私たちの国民健康保険にもかなりの影響を与えるのではないかとされています。何がどう影響するのか？ 支える会の会員だからこそ知り、一人一人が自分の考えを持つことが大切だと思いますので TPP により国民健康保険制度が影響を受けるという話を考えてみましょう。

## 今の日本を考える

日本は、現在、みんなが医療を受けられるような仕組みになっています。国民皆保険制度というもので、病院の窓口で健康保険証を提示すると保険がきくので 2 割から 3 割の自己負担で病院を受診できる仕組みになっています。日本でも保険外診療がないわけではありませんが、最低限度のむし歯を治したり、命に係わる応急処置を受けるときに保険診療はとても役に立ちます。

## 今のアメリカの診療から

「大学は奨学金で行けるが、むし歯の治療はできない」  
「あなたの保険では、この医療費は出ません」  
「救急車を呼ぶ前に電話をしなかったので保険は適用されません」

意識不明で救急車で  
運ばれても

アメリカでは、医療保険に入っているか、入っていてもどの種類の保険に入っているか、病院の決めた診療報酬を支払できるかなど、病院にかかりにくい仕組みが沢山あります。有名なのは、手術してすぐに退院し、隣のホテルに移るという話。入院の費用が高いので入院せずにホテルに移り通院し経過観察するというもの。ひどい場合は、そのまま帰ることもあるということ。

指を 2 本切断したが、医療費が高すぎて中指の手術はあきらめた。  
1 本手術でただ僕らは幸運だというブログを見ると切なくなる。

自由診療、収入に合った医療を受けるといっても、会社員が保険に入っている場合でも病院で医療を受けるのが難しいと感じるそう。特に投薬は高く診療を受けても処方された薬を買えないまま帰ることも少なくないらしい。

## TPP にはいると

**日本の医療制度が変わります**

アメリカが自国の医療制度を日本に強要してくることを考えておかなければなりません。

この続きは、もう少し詳しく次号以降で・・・

「サルでもわかる TPP」というホームページには、TPP の問題点について簡単な言葉でわかりやすく載っています。

公立芽室病院の小児科の先生いなくなるって本当？

現在勤務してくださっている住谷先生が 9 月末日をもってやめられるので、小児科の医師を探しています。まちと病院がともに懸命になって探している状況です。

産婦人科と小児科の医師は昼も夜もなく出産に立ち会うので私たちが思う以上に精神的にも肉体的にも大変な仕事だってことは知っているつもりだけど、仮に小児科医がいなくなったり、小児科がなくなるようなことになったら、産婦人科だって心配だってことになるの？

全国の地方病院が苦勞しているのと同じく、公立芽室病院も医師探しは難しい状況です。この会の発足理由のように 人と人のつながりと、そのつながりによってもたらされる情報が重要なものとなります。

- ① 知っている医師がいる
- ② 来てくれそうな医師を知っている
- ③ 芽室町出身の医師がいる
- ④ 芽室町出身で医大生がいる
- ⑤ 自分の家族が医師をしている
- ⑥ 被災等の関係で北海道へ移住を考えている医師がいる など

情報をお持ちの方は会長宅へご一報ください。どんなことでもかまいません。

地域医療の抱える大変な状況を理解し、病院の利用の仕方、医師の診療を受ける時のマナーやルールを考え、お互いが心地よく支え合えるのが理想ですね。医師を呼ぶのはそんなに簡単なことではありませんが、医師が住みたいと思える芽室町になるよう知恵を出し合いましょう。芽室町の町民はマナーが良い、病院を大切にしているなどの情報も医師の気持ちを決定させる時に大切なことだそうです。医師を探し、呼び寄せ、ともに豊かに暮らす町であってほしいと思います。なにより小児科の医師が早く芽室町に来ていただけるようみなさんの力を貸して下さい。

まずは、小児科医探しがんばりましょう。